

教科	社会(歴史的分野)	学年	第3学年
----	-----------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第5章 日本の近代化と国際社会 4節 激動する東アジアと日清・日露戦争	9	条約改正の歩みや日清・日露戦争について捉え、日本の国際的地位が向上したことを、大陸との関係と関わらせて理解する。 日清・日露戦争を通じて、日本をとりまく国際関係が変化したことについて考える。	日清・日露戦争、条約改正などをもとに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報について調べてまとめ、日本の国際的地位が向上したことを理解している。	議会政治や外交の展開などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本と世界との関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。	国際的な視野に立って、日本の国際的地位が向上したことについて、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。
第5章 日本の近代化と国際社会 5節 近代の産業と文化の発展		日本でも産業革命が進み、近代産業が発展したことと、それによる社会の変化について理解する。 学問・教育・科学・芸術の発展を背景に、近代文化が形成されたことを理解する。	日本の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などをもとに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報について調べてまとめ、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。	近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、産業の発展が国民生活や文化に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	日本の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問や教育の発展について、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。
第6章 二度の世界大戦と日本 1節 第一次世界大戦と民族独立の動き	22	第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きについて理解する。 第一次世界大戦前後の国際情勢や、大戦後に国際平和への努力がなされたことを、日本の動きと関わらせて理解する。	第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きなどをもとに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報について調べてまとめ、第一次世界大戦前後の国際情勢及び日本の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解している。	世界の動きと日本との関連などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、第一次世界大戦による世界と日本の社会の変化や影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第6章 二度の世界大戦と日本 2節 大正デモクラシー		政党政治の確立や民主主義思想の普及、社会運動の高まりについて捉え、大正時代に国民の政治的自覚が高まったことを理解する。 都市化やメディアの発達などを背景に、文化の大衆化が進んだことを理解する。	日本の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などをもとに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報について調べてまとめ、政党政治の展開や、社会運動の広がり、女性の社会的進出、大都市の発達や人々の生活様式や意識の変化を理解している。	世界の動きと日本との関連などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、戦争による世界と日本の社会の変化や影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	第一次世界大戦前後の日本の政治・社会・文化における変化について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第6章 二度の世界大戦と日本 3節 恐慌から戦争へ		経済の世界的な混乱が発生した原因や、各国への影響について考える。 昭和初期から第二次世界大戦の開戦までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民生活について捉え、軍部の台頭から戦争までの経過を理解する。	経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期の日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係などをもとに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報について調べてまとめ、軍部の台頭から戦争までの経過について理解している。	経済の変化と政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと日本との関連などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、二度目の世界大戦に向かっていった理由について、多面的・多角的に考察し、表現している。	経済の世界的な混乱と各国への影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第6章 二度の世界大戦と日本 4節 第二次世界大戦と日本の敗戦		第二次世界大戦の開戦から終結までの各国や日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、戦時下の国民生活について捉え、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。 第二次世界大戦が及ぼした惨禍を踏まえ、国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気づく。	第二次世界大戦の終結までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などをもとに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を調べまとめ、戦争の経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。	世界の動きと日本との関連などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、二度目の世界大戦が起こった理由やその戦争の影響を世界的な視野で、多面的・多角的に考察し、表現している。	第二次世界大戦の開戦から終結までの各国や日本の動き、そして、この大戦が及ぼした惨禍について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第7章 現代の日本と世界 1節 日本の民主化と冷戦	16	第二次世界大戦後、国際社会に復帰するまでの日本の民主化と再建の過程について理解する。 冷戦の始まりや朝鮮戦争などの世界の動きのなかで、新しい日本の建設が進められたことを理解する。	冷戦、日本の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などをもとに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報について調べてまとめ、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。	戦後の展開と国際社会の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、諸改革が日本の社会に及ぼした変化や冷戦体制下の日本と世界との関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	国際社会に復帰するまでの日本の民主化と再建の過程について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第7章 現代の日本と世界 2節 世界の多極化と日本		ベトナム戦争や中東戦争などの世界の動きを背景に、日本の高度経済成長が石油危機により終焉するまでの過程について、安保改定・沖縄返還・日中国交正常化などの国際社会との関わりをなかで理解する。 日本の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上したことを理解する。	高度経済成長、国際社会との関わりなどをもとに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報について調べてまとめ、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解している。	政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、国民生活への影響と国際平和の実現への努力などについて多面的・多角的に考察し、表現している。	冷戦下の国際社会の中における日本の変化について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第7章 現代の日本と世界 3節 冷戦の終結とこれからの日本		冷戦終結後の変動する世界と日本の動きについて捉え、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解する。 環境・人権・平和などをめぐるさまざまな課題が残されていることに気づき、これからの未来をひらくためにどのように社会と関わればよいのか考える。	冷戦の終結、国際社会との関わりなどをもとに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報について調べてまとめ、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解している。	政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、国民生活への影響と国際平和の実現への努力などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	冷戦終結後の変動する世界と日本の動きについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。